しが若者アイデアソン！

Mother Lake 滋賀県

しが若者アイデアソン 開催レポート

「若者が活躍できる滋賀」を実現するため、県内で活躍する若者からアイデア（意見）を聴き、県の施策に反映することを目的に、2日間にわたって開催された「しが若者アイデアソン」。高校生から大学生、社会人まで総勢20名以上が参加し、多様な視点から課題解決に対するアイデアを出し合い、2日目の最後にプレゼンテーション発表会を実施しました。

しが若者アイデアソン！って？

滋賀県の子ども・若者施策を若者自身の視点で考えるワークショップです。今回は、「結婚・出産・子育て支援」「子どもの体験活動推進」「若者の社会参画」などといった子ども若者施策を中心に、参加者がそれぞれのアイデアを創出。生まれたアイデアは、県が提案内容を踏まえ、今後の施策に反映していきます。

アイデアソンを彩った多様なテーマ

高校生から社会人まで幅広い年齢層が集まった今回のアイデアソン。高校生からは、学校生活や日常で感じる具体的な困り事が共有され、大人たちが「なるほど」とうなずく場面も。社会人からは、事業や仕事を通して見えてきた課題が提示され、他分野との連携や繋がりへの期待が語られました。
会場では、「それやりたい！」「面白そう！」といった声が飛び交い、参加者同士の積極的な交流が行われました。

Day1 6/28(土)

白熱議論から生まれた6つのチーム

1 ガチ!!! 子ども目線

プロジェクト名 子どもたちによる子どもたちのためのデジタル秘密基地

ターゲット
すべての子どもたち（小中高生）

目的
子どもの体験格差を解消したい

アイデア
- 子ども向けの体験イベントが見られるアプリ・ポータルサイトの制作
- 学習船「うみのこ」を使った体験イベントも面白そう！
- 困ったときに子どもたちが発信したり情報を入手したりできるサイトにしたい

2 生きづらさコネクト滋賀

プロジェクト名 生きづらさコネクト滋賀

ターゲット
ひきこもりやヤングケアラー、不登校など、孤立しがちな人々

目的
生きづらさを抱えている人への支援

アイデア
- 「ジュースを買いに行くように」気軽に立ち寄れる居場所を作りたい！
- 啓発イベントの開催や県で使えるものをPRできないか…
- 上から目線の支援にならないように気を付けて「生存の不安感」を和らげる支援がしたい

3 未来レンズ

プロジェクト名 高校生未来レンズプロジェクト～自分×企業×滋賀～

ターゲット
高校生

目的
地元学生の県内就職率アップ

アイデア
- 学生に県内の企業をPRし、興味を持ってもらう
- 次世代へのバトンタッチを考える企業と学生を繋ぐ取り組みがほしい
- 企業と学生がマッチングするジョブイベントを開催したい

4 14歳のハローワーク

プロジェクト名 じぶん革命～ミライの自分に会いに行く～

ターゲット
中学生

目的
中学生が、主体的に将来の仕事やキャリアを考えるきっかけをつくりたい

アイデア
- 中学生が多様な人々と出会い関わることで、視野を広げられる場をつくる
- 保護者に向けた情報発信も考える必要がある
- 中学生の主体性を高めるワークショップで将来の選択肢を増やしたい！

5 子育てって楽しい！

プロジェクト名 ハグナビ応援サポーター制度事業

ターゲット
子育てする保護者

目的
子どもが元気に過ごすために、関わる大人たち（親）をサポートしたい

アイデア
- まずは市町の既存の取り組みや、支援事業について情報を必要とする保護者に広く知ってほしい
- 支援はたくさんあるがそれぞれ独立していて分かりづらい…
- 孤立や不安を感じる親に向けて、働き方や支援などをまとめたマガジンを作成したい！

6 challenger Birth

プロジェクト名 しが若者ネットワークムーブメント

ターゲット
大学生、地域の若者

目的
人材輩出・若者の社会参画を応援したい

アイデア
- 挑戦したいことはあるが、お金やきっかけがなくて一歩踏み出せない若者が多い
- 若者のチャレンジを応援するための基金の仕組みや体制を整えたい！
- 若者のチャレンジを支援する場づくり

各チームには、県庁職員や滋賀の起業家がフィードバッカーとして参加。専門的なアドバイスが提供され、チーム側が県職員に、県側が感じている課題や困りごとについて質問を投げかける場面もみられました。
参加者からは「考えがまとまった！」「やりたいことは見えてきたが、クリアすべき課題も見つかった」など、目的の実現までを見据えて計画を作っていくことの難しさを実感した声や、今後に向けた意気込みが聞かれました。

県庁職員やフィードバッカーからのアドバイス

- 仕組みを見直すことで対応できそうな意見もあった
- 出たアイデアの優先順位を付けてまとめましょう
- 県が行うことの意味や他の取り組みとの差別化を図ることが大切

各チームは、今回のアイデアやアドバイスを基に、事業内容や予算についてまとめ、2日目に臨みます。

Day2 へ

Day2 7/20(日)

「しが若者アイデアソン！」2日目がスタート。
前回のアイデアをまとめ、プレゼンテーションを行います。
各チームは、この日のためにミーティングを重ね、
成果を披露する準備を整えてきました。

事業計画に落とし込むワークショップ

県庁職員が各チームに入り、一緒に事業計画を作り上げるワークショップを行いました。

参加者と県職員は、互いに頷いたり、時には悩みながら意見を形にしていきました。県職員からは「県で取り組んでいる方法と、もし違うアイデアがあれば教えてほしい」といった具体的な問いかけも。さらに、踏み込んだ予算の話も飛び出し、単なるアイデア出しに留まらない、実践的な議論が展開。参加者と県職員が一体となって事業の具体化を進める貴重な時間となりました。

1 ガチ!!! 子ども目線

プロジェクト名 子どもたちによる子どもたちのためのデジタル秘密基地

解決すべき課題

・「情報格差」による子どもの体験格差。子どもに必要な情報が届いていない現状。（例：夏休みイベントチラシが、文字が多く保護者向け）

提案内容

・県内の体験学習情報を集約し、子ども向けに発信するデジタルプラットフォームの構築。
・子ども向けの分かりやすいデザインや多言語対応（優しい日本語）で、外国籍の子どもにも届ける。
・体験活動の無料クーポンやこども食堂マップも発信。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「子ども目線でものを作るという視点が大変良い。他のチームでも、似た課題があれば一緒に取り組むといいのでは」

「現状はそれぞれの情報がバラバラ。ユーザー目線でまとまったものを作るというのは良いアイデア」

2 生きづらさコネクト滋賀

プロジェクト名 生きづらさコネクト滋賀

解決すべき課題

・ひきこもりやヤングケアラー、不登校など、「生きづらさ」を感じている人々と、それに対応する支援機関とのギャップ。
・当事者の声が行政に届きにくいこと。

提案内容

・県と当事者、支援者での議論の場（アイデアソン的なワークショップ）を定期的に開催し、意見を反映できる仕組み作り。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「課題を感じている方と話して新しい施策を考えるというのは、県庁ではあまりなかった視点だった」

「同じことで悩んでいる人、共感する人がたくさんいると思う。良い問題提起になったと思う」

3 未来レンズ

プロジェクト名 高校生未来レンズプロジェクト～自分×企業×滋賀～

解決すべき課題

・高校生が、将来の進路を選択する際に得られる情報が少ない。
・新卒者の離職率が高い。

提案内容

・性格診断やワークショップを開催し、自分の興味関心を知る。
・地元企業の話や業界の情報、多様な働き方などリアルな声を聞ける場の提供。
・企業が若者のニーズを知ることで企業の利点も創出。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「能動的に高校生が社会に触れる取り組みは、自分の人生の選択肢を広げるためにも重要」

「色んな働き方、暮らし方があることも伝えてほしい！」

4 14歳のハローワーク

プロジェクト名 じぶん革命～ミライの自分に会いに行く～

解決すべき課題

・自身が何をしたいのか分からない学生がいること。高校生になると進路選択に迫られるため、中学生の頃から主体的に将来を考える機会が必要。

提案内容

・広い視野で進路や将来について考えるきっかけの場をつくる。
・中学生が、高校生・大学生、様々な職種の社会人など多くの人の話を聞ける「人と繋がるワークショップ」を開催。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「子どもの主体性を育てる機会は、なかなかない。保護者にとっても、ありがたい取り組み」

「中学のうちから色んな人の意見を取り入れる機会は重要。高校生向けの未来レンズプロジェクトとうまくつながっていくといい」

5 子育てって楽しい！

プロジェクト名 ハグナビ応援サポーター制度事業

解決すべき課題

・子育てに関する既存の制度や情報は多数あるものの、情報の整理と必要な人への効果的な周知が不足。

提案内容

・子育て支援団体などを「ハグナビ応援サポーター」として巻き込み、サイト活用の促進・情報発信を強化。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「この取り組みを通して、滋賀県は子育てしやすい県ですとアピールしたい」

「子ども若者だけでなく、子育てする親をサポートする視点が新しい」

6 challenger Birth

プロジェクト名 しが若者ネットワークムーブメント

解決すべき課題

・何かしたい思いがあるのに、一歩踏み出せない若者がいること。
特に、初挑戦の若者への支援が少ないこと。

提案内容

・やりたいことが明確な若者と、そうでない若者の両方に対応した伴走支援体制の構築。
・資金調達や支援ネットワークの整理、中高生への出張授業を通して地域活動の担い手を育てる。

フィードバッカー 県職員からのコメント

「資金の問題だけでなく実際の支援や伴走など多面的なサポートが重要。周囲の大人がどう支援するかを考える必要がある」

各チーム、自分たちの言葉で熱い思いをしっかりと伝え、会場からは共感や感心の声が聞かれました。質疑応答では具体的な質問がされるなど、アイデアの実現に向けて真剣に考える場となりました。

三日月知事からの総括

「普段は、やるべきことに追われ、ニーズを聞くということが難しかった。明確なニーズを持つ人だけでなく、やりたいことがわからない若者への目線も大切だ」と、若者の視点に立った課題認識が共有されました。
また、「体験格差は情報格差という言葉も印象的。情報がわかりにくく、一方通行という現状の改善が必要」と指摘。ワークショップでの対話を通して、「そんな考えもあるんだ、それ、一緒にできるやん！という発見があるのも良かった。若者のチャレンジを盛り上げ、一緒に伴走するのも県としての役目だ」と、支援への強い意志が示されました。

参加者の感想

- 自分たちのアイデアと県が抱えている課題がマッチしたように思う
- 同じ悩みをもつ方と語り合い、互いを認め合える場だった。
- 県の職員と一緒に考える貴重な機会。各市町、地域の取り組みに活かしていける取り組みだった
- 大人たちに何ができるか、考えさせられる会だった
- 高校生や大学生も入って、貴重な意見交換ができた。

まとめ

最後に県職員からは「今回、たくさんのアイデアに議論を重ね、それぞれのチームの思いが形になった。各地域や市町にも広げられるモデルのような取り組みだったと思う。来年度の施策にどのように生かされるか、見守っていてください」という言葉と共に大きな拍手に包まれ、2日間にわたる熱いセッションは幕を閉じました。
このアイデアソンから生まれた若者たちの声が、今後、滋賀県の子ども・若者施策で、どのように発展していくのか、楽しみです。